

# 1. 館山市人口ビジョンの趣旨・位置づけ

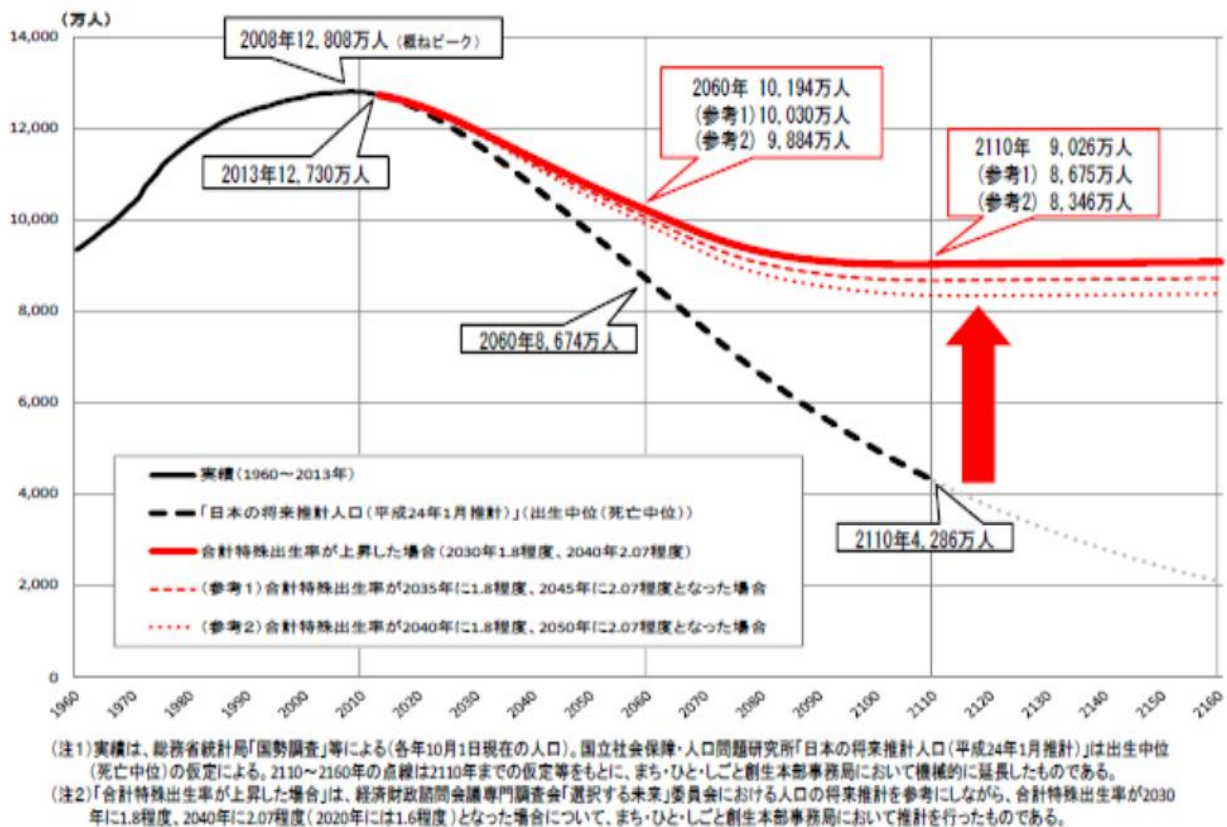
国において、まち・ひと・しごと創生法（平成26年法律第136号）が制定され、平成26年12月27日に、人口の減少と将来の展望を提示する「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」（以下「国の長期ビジョン」という。）及び、今後5か年の政府の施策の方向を提示する「まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下「国の総合戦略」という。）が閣議決定されました。

これを受け、地方公共団体においては、国の長期ビジョン及び総合戦略を勘案した中で、地方版の人口ビジョン及び総合戦略の策定に努めることとされています。

そこで、館山市の人口に関する認識を市全体で共有し、議論を深め、一体となって取り組んでいくために、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示します。

分析による課題の抽出 ⇒ 対策の検討 ⇒ 総合戦略の策定

## 2. 国の長期ビジョン



### (1) 目指すべき将来の方向性

- ◆ 2060年に1億人程度の人口確保
- ◆ 実質GDP成長率1.5～2%程度の維持

### (2) 今後の基本的視点

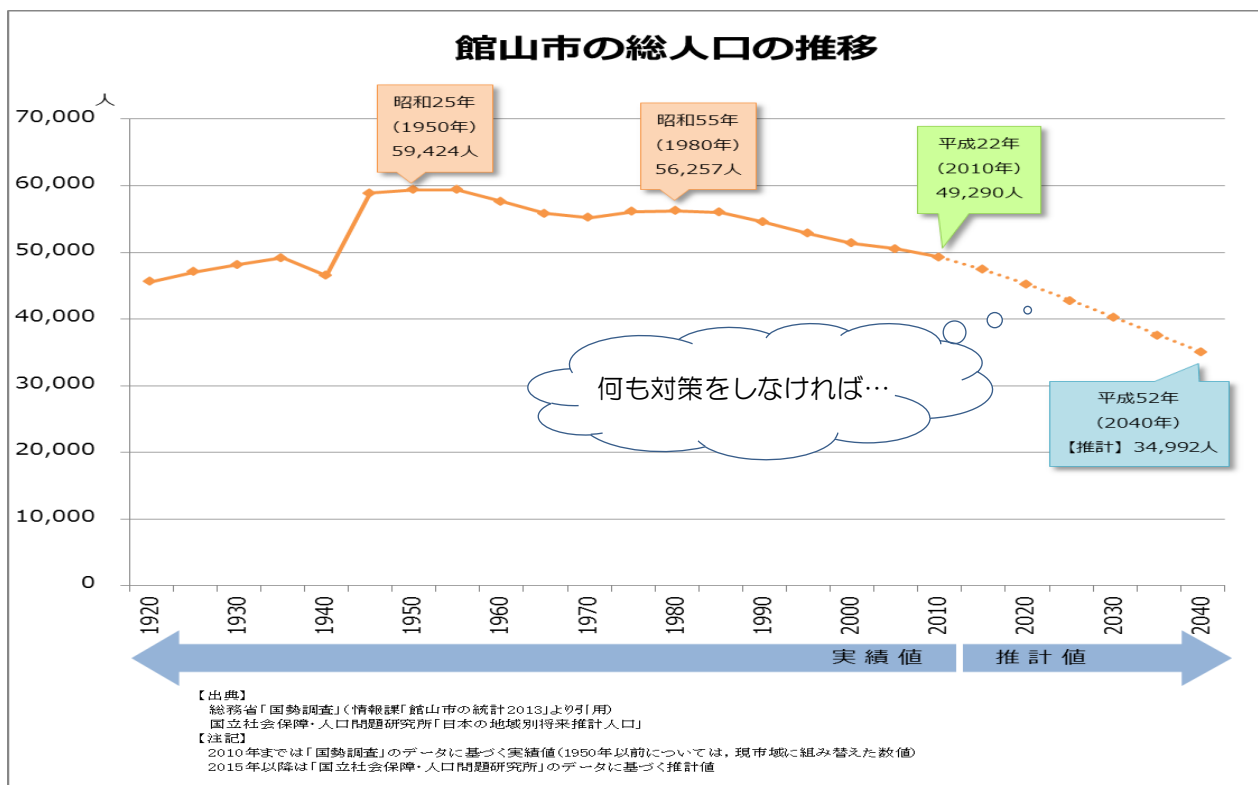
- ◆ 「東京一極集中」の是正
- ◆ 若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現
- ◆ 地域の特性に即した地域課題の解決

## 3. 千葉県人口ビジョンについて

市の人口ビジョンについては、県の人口ビジョンも勘案することとされている。県も検討中のため、公表され次第対応。

## 4. 館山市の人口分析

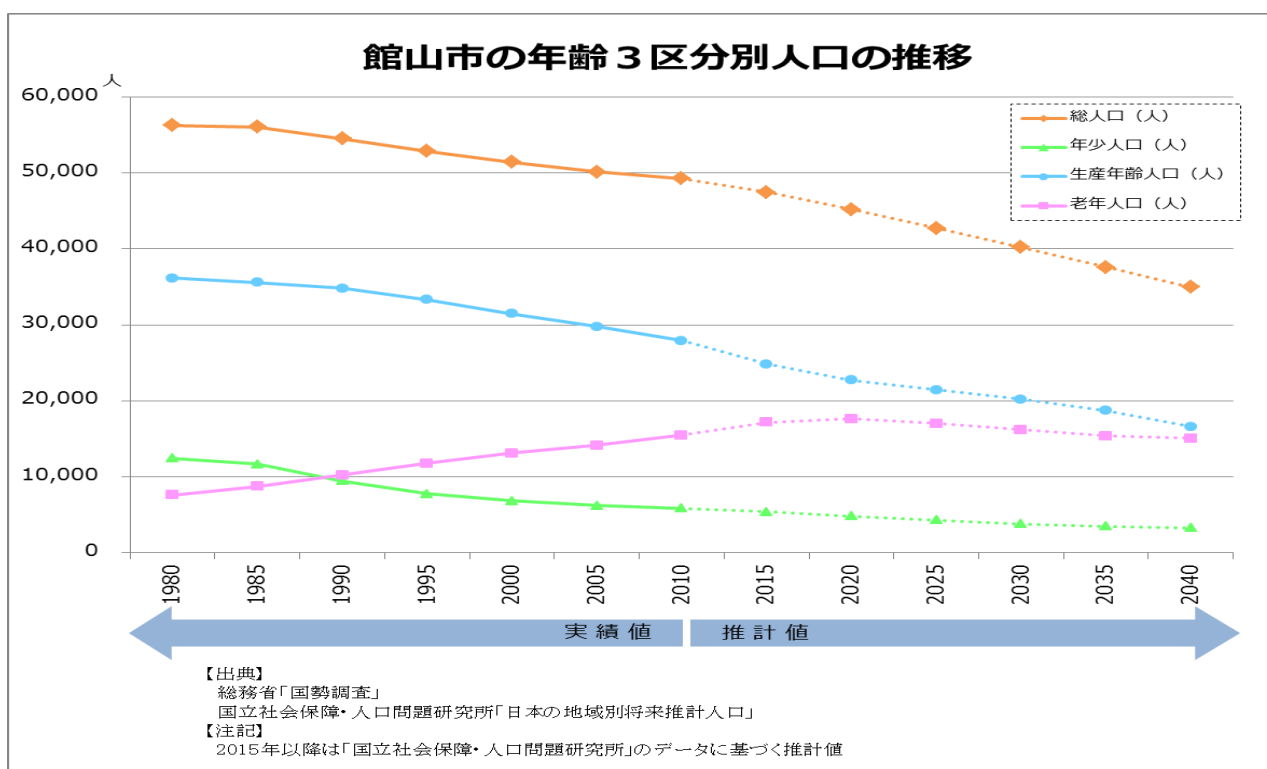
### 【総人口の推移】



昭和 55 (1980) 年の 56,257 人をピークに減少傾向。

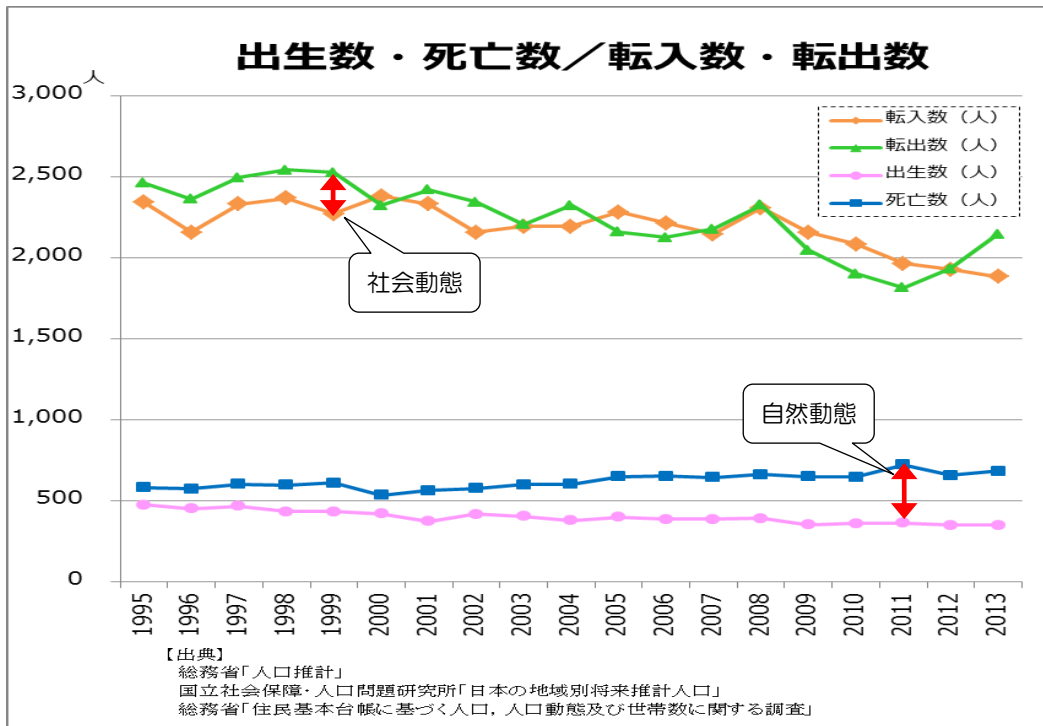
国立社会保障人口問題研究所 (以下、「社人研」) によれば、今後も人口減少は加速し、2040 年には約 35,000 人まで減少すると推計されている。

### 【年齢3区分別人口の推移】



老年人口は 2020 年で頭打ちとなり、その後はゆるやかに減少に転じると推計されている。

## 【出生・死亡数，転入・転出の推移】



人口増減に影響を与える  
 主要要因は

- ① 自然動態  
 (出生数－死亡数)
- ② 社会動態  
 (転入数－転出数)

である。

### (自然動態の状況)

当市では，1995 年以前から，自然減（出生数＜死亡数）が続いており，その傾向は強まっている。また，老年人口の増加から，その流れは今後も続くものと考えられる。

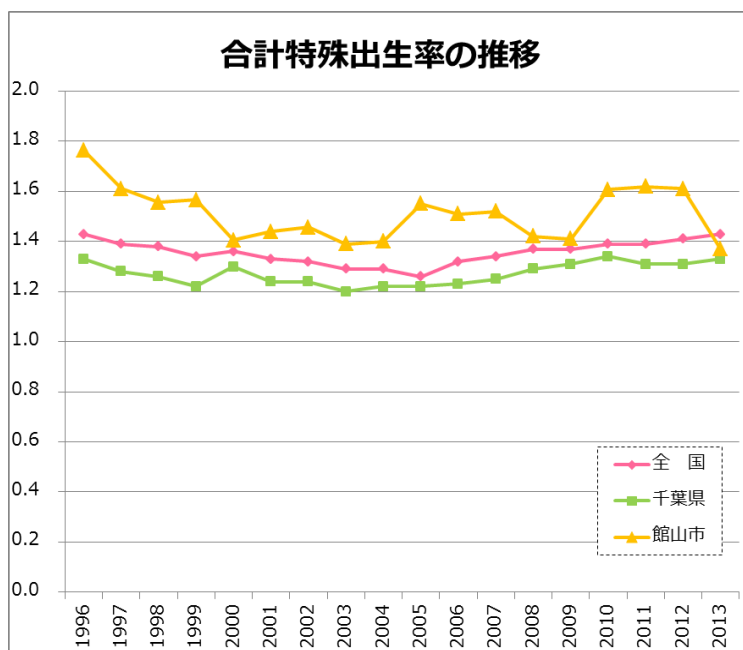
### (社会動態の状況)

年による変動が大きい。

2009 年～2011 年は社会増（転入者＞転出者）であったが，2013 年は社会減（転入数＜転出数）となっている。

## 出生数に影響を与えるものとして…

### 【合計特殊出生率の推移】



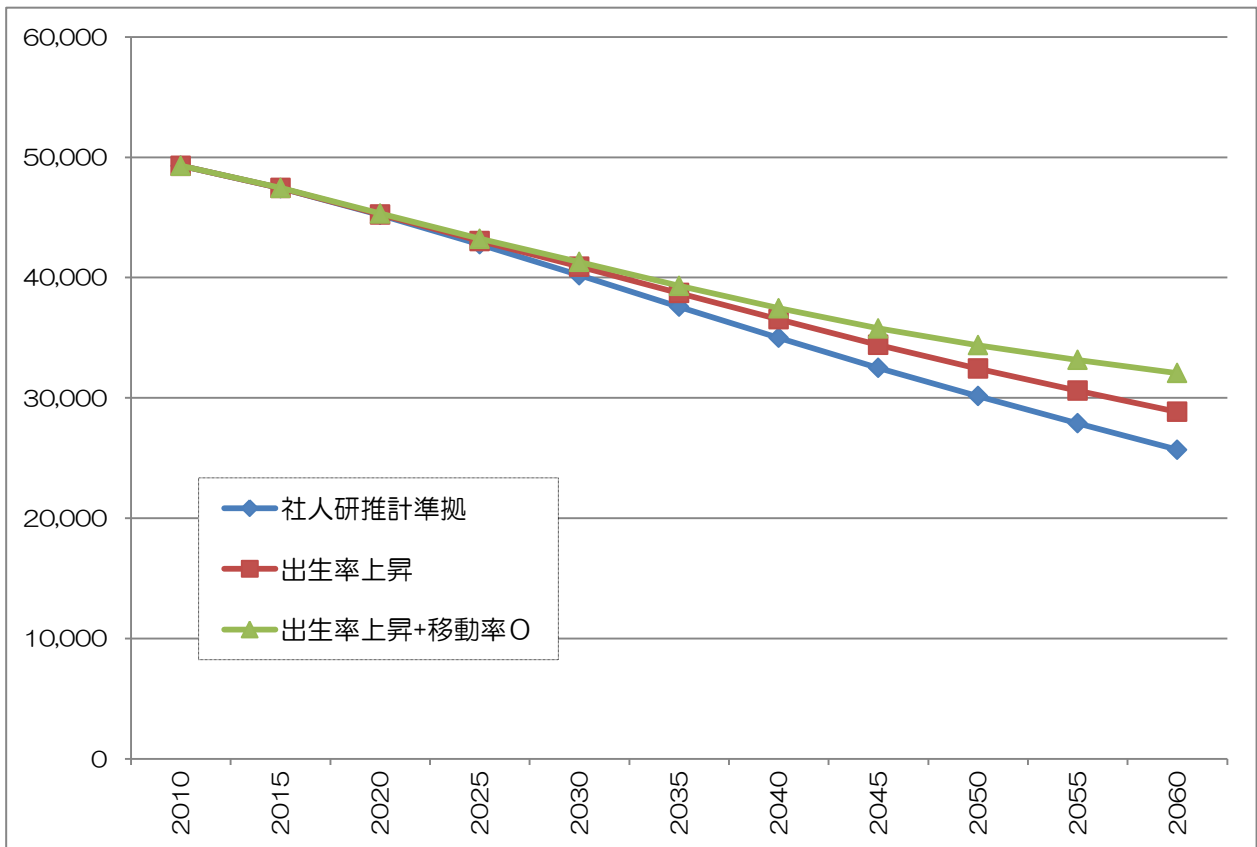
### <合計特殊出生率とは>

1 人の女性が生涯に何人の子供を産むかを表す数値。（15～49 歳の女性の年齢別出生率を合計したもの。）

合計特殊出生率がおよそ 2.1 のとき，人口は増加も減少もしない（人口置換水準）。

当市の合計特殊出生率は，全国平均・県平均よりも高い率で推移してきたが，2013 年には，全国平均を下回る率となっている。

## 5. 仮定値による将来人口推計



- ① 社人研推計準拠 ⇒ 今後何もせず，現在の状況がほぼ続いたと仮定した場合
- ② 出生率上昇 ⇒ 合計特殊出生率が2025年までに「1.8」，2030年までに人口置換水準（人口が増えも減りもしない）の「2.1」まで上昇すると仮定した場合  
※ 合計特殊出生率「1.8」とは… 国の長期ビジョンでは，若い世代の結婚や出産に関する希望が実現すると，合計特殊出生率は1.8程度に改善されるとしている。
- ③ 出生率上昇+移動率0 ⇒ 合計特殊出生率は②と同様に上昇し，人口移動が0（転出者数≒転入者数）と仮定した場合

自然減（出生数 << 死亡数）の影響が強く，短期的には，人口減少は否めない。「定住人口」のみならず，「交流人口」もあわせて考慮していきたい。

どのような対応・対策をとっていくのか？⇒

**総合戦略**